

Mind the gap!

感性デザイン工学科3年 幣 亮汰



私は2018年の夏に Three Wheels および UCL 語学研修として ロンドンに短期留学をしました。到着してからの4日間はロンドン市内にあるお寺の三輪精舎に滞在させてもらい、その後UCLへと移動しました。

三輪精舎で毎朝輪読をした父母恩重經の中に、子は親のしてくれることへのありがたみをいつしか忘れ、それを当たり前だと認識し感謝しなくなるという教えがありました。大学入学以降、親元を離れ一人暮らしをしている私にはとても響き、感謝の気持ちでいっぱいになりました。また、「当たり前」とはその環境に置かれている間は自分では気づくことができず、自分がどれほど恵まれていたか、その時間がどれほど貴重だったかは、他人に教えてもらったりその状況から離れてみたりしないと分からないのだと改めて感じました。だから、今この瞬間を幸せだと感じ、感謝しながら生きていくべきなのだと気づかされました。それが三輪精舎で過ごした時間の大きな意味だと思っています。

タイトルにもしている“Mind the gap!”これはホームと電車との間に大きな隙間がある駅が多いロンドンの地下鉄で流れる乗客へ向けたアナウンスです。ロンドンにいた3週間で最も耳にしたフレーズと言っても過言ではありません。そして、地下鉄の中でスーツケースを持っていた私たちに現地の方は声をかけ、席を譲ってくれました。ロンドンに滞在中、

電車の中で女性や子ども、お年寄りに他の乗客が席を譲る場面を日本にいるときよりも頻繁に見かけました。日本人は親切だとよく耳にしますが、果たしてそれを鵜呑みにしているのかという疑問が私の中に生まれました。一概には言えませんが、その時の私の目にはロンドンの人の方がずっと親切に思えました。

街中には多くの日本食レストランが並び、日本の文化が浸透していることを実感しました。ロンドンの街並みはとても美しく、どこをとっても絵になりました。さらに大英博物館やナショナルギャラリーなどのミュージアムが多く、芸術をゆっくり楽しむことができました。建築を勉強している私にとって、建築への興味・関心を大きく高める時間となりました。

今はネットを使えばすぐに情報を得ることができる便利な時代ですが、実際に足を運び現地の空気を味わうことが大切だと感じました。現地に行かないと絶対に分からないこと、知るはずのないことがあります。お金や労力がかかったとしても、その時の新鮮な心と自



ザ・シャードにて

分が持ち合わせている感性で様々なものを感じとったその時間は、自分だけの唯一無二の財産だと思います。そこで得たものを人生に活かしながら、これからもずっと新しい発見を追い求めていきたいと思っています。

私はこれまでにロンドンを含め6つの国と地域に行きました。どこに行っても普段自分が住んでいる地域とはあらゆる面で違いがあり、それは国ごと地域ごとにも異なります。その違いを目の当たりにするたびに、言葉で表し難い何かが心の中に強く残りました。その感覚が、私が英語に触れ続けたいと思う一番の理由でもあります。そのためにも、もっと英会話力を磨くべきだと思っています。英語で言いたいことが上手く伝わり共感してもらえるのはすごくうれしいことですが、上手く伝えられなくても伝えようとする姿勢が大事だと思います。間違ってもいいからと割り切れる勇気が人前で自分の意見を言ううえで欠かせないと思いました。慣れるのには時間がかかりますが、脳で日本語を介さず耳に入ってきたまま英語で理解し、英語で返すことがコミュニケーションの基本でもありスムーズに会話をする一番の方法だと認識しています。それを実感したのは1年生の春にフィリピンへ語学留学に行った時でした。その後、2年生の時から工学部の『留学生サポーター』に参加していますが、留学生とのコミュニケーションはスムーズな会話の練習になり、客観的に日本を知るいい機会にもなっています。UCLの先生と教育制度や文化について話した後、「日本ではどうなの？」と聞かれましたが、恥ずかしいことにすぐ答えることができませんでした。改めて、自分が日本についての知識が足りず、何となく認識しているものばかりだと気づかされました。他国について知るということは自国を改めて知ることにもなるのだと思いました。

ロンドンで過ごした3週間は、三輪精舎のみなさん、一緒に参加したメンバーをはじめ、多くの方のおかげで充実したものとなりました。この研修を通して海外の工学技術の高さや建築・芸術の楽しさを身をもって感じ、将来海外で働きたいという自分の気持ちを再認識できました。これからも考え方や文化の違いを尊重しながら国際交流に力を入れていきたいと思っています。

前述したように私は今、工学部の留学生サポーターとして留学生たちとの交流を楽しんでいます。工学部の留学生サポーターは、現在20名おり、その約半数は留学生です。主な活動内容は、留学生たちとの異文化交流イベントの企画と実施、日本語授業や日本文化体験クラスの手伝いや日常生活のサポートなどです。活動をもっと活発にするために、サポーターを募集しています。国際交流に興味がある方、外国人の友達がほしい方、英語を使いたいけどそのコミュニティを見つけられない方等、少しでも興味がある方は、是非本館1階の留学生アドバイザー室をのぞいてみてください。サポーターの申込は随時受け付けています。

最後に、常盤工業会から留学費用の一部をご支援いただき、またこのような形で自分自身を振り返る機会を与えていただいたことに心より感謝申し上げます。